

岡本清一著

自由の問題



岩波新書

C 32

目次

まえがき

第一章 自由の問題への接近……………一

1 人間は自由でありうるか……………二

2 『反デューリング論』の自由……………八

3 エンゲルスとミル……………一四

4 「四つの自由」……………一七

第二章 「自由」の概念の整理……………二五

1 自由と拘束(強制)との関係……………二六

2 組織にもとづく拘束(強制)と自由……………二六

3 組織にもとづかない拘束と自由……………二九

4 二つの自由の混同……………三三

5 組織にもとづく自由と組織にもとづかない自由との関連……………三五

第三章 国家における自由の問題……………三五

1 歴史と自由……………三六

2 権力の制限と自由……………六一

3 自由のための制度……………六六

4 権力と自由……………七〇

5 権力の強化と自由……………七六

第四章 権力者と人民との対立……………八三

1 自由の問題の永久性……………八四

2 組織における対立……………八八

3 全体と個との対立……………九四

第五章 資本主義的自由の特質と発展……………一〇五

1 自由の質と量……………一〇八

2	近代資本主義的自由と商品	110
3	商品と近代的自由の発展	110
4	近代的自由と暴力の否定	116
5	近代的自由の発展と労働者階級	139
第六章 自由の発展と社会主義		
1	社会主義国家と自由の真空	147
2	資本主義の永久繁栄の問題	157
3	現代アメリカ的自由の限界	173
4	社会主義への移行と自由の問題	195